

# あびこ型「地産地消」推進協議会 会報

2010年 1月 冬 22号

発行 あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 秋保 武  
〒270-1155 我孫子市我孫子新田22-4 あびこ農産物直売所内  
Tel 04-7128-7770 FAX 04-7128-7771  
URL : <http://www15.plala.or.jp/chisan/>  
Mail : abikochisanchisyoko@sky.plala.or.jp

わたしたちは豊かで住みよい“農あるまちづくり”をめざします！  
あびこ産農産物による「地産地消」の推進、援農ボランティアなどの活動をしています



※NHKテレビの詳細は13、14ページをご覧ください

## 目 次

新年の挨拶・星野市長 秋保会長	1・2	第1期生新規就農者・加賀文志氏	10
米粉の料理教室	3・4	新年餅つき大会	11・12
農産物直売所を見学して	5・6	NHK総合テレビ	
第6期援農ボランティア養成講座の感想	7・8	「生活ほっとモーニング」放送	13・14
第2回新規就農講座を開催	9	お知らせ 編集後記	15

# 我孫子市長挨拶



平成 22 年 元旦

市長 星野 順一郎

新年明けましておめでとうございます。

あびこ型「地産地消」推進協議会会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

我孫子市では、都市と農業が共生し市民のくらしを豊かにする農業と、農業者の生業としての農業の両立を目指す「あびこ型都市農業」の確立を推進しています。

そのためには、生産地即消費地という利点を活かした地産地消の推進や消費者が農業に理解と親しみをもてる仕組みづくりが重要となっています。

日ごろより、会員の皆様方は、我孫子産農産物を地元で消費する「地産地消」の推進活動や援農ボランティア活動、また、10校の小中学校給食で取り組んでいる「我孫子産野菜の日」に、地元野菜を納品する搬送ボランティアなど、様々な活動を活発に展開されています。

市が目指している、あびこ型都市農業の確立に、多大なるご尽力をいたいていることに、この場お借りして改めて感謝申し上げます。

生産者と市民が信頼しあいながら、地元で収穫された農産物を地元で消費することで、我孫子市の基幹産業である農業が栄え、また、これにより自然環境と景観の保全にも繋がります。

我孫子市の農業の発展には、あびこ型「地産地消」推進協議会、農業者、行政の協力と連携は不可欠であると考えています。

今後とも皆様のご協力をお願いするとともに、あびこ型「地産地消」推進協議会の更なる発展ならびに会員の皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のごあいさつとさせていただきます。

# 変革と部会の活性化に向けて



平成 22 年 元旦

会長 秋保 武

新年明けましておめでとうございます。本年も当協議会に対するご支援ご指導よろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、我孫子市と当会にとって大変嬉しいニュースがありました。それは、当会の中核をなす援農ボランティア活動が、NHKのTV番組(2009年11月17日)で12分間にわたって全国に紹介されたことです。

5期生の川田悦代さんが受入農家である古川農園で作業する様子や川田さんの援農についての考え方や意見が、映像をとおしてわかりやすく、鮮やかに紹介されました。テレビを見た方から「自分も参加したい」など多くの反響が寄せられました。

これを契機に我孫子市「援農レディー」の活動が他市町村の模範となり、農業・農家が少しでも元気になればこの上ない喜びです。また我孫子市の知名度アップと当会への評価向上にも繋がったのではないかと自負しております。

ほかに当会は、農産物直売所をとおした販路拡大、学校給食搬送支援、市民交流・食育、新規就農支援、広報宣伝などの諸活動に取り組んでおります。その中で、新規就農支援では市および県の熱心な取り組みにより昨年、新規就農者4名が誕生いたしました。就農希望者はその後も何名かの方が控えており、こうした取り組みは我孫子市農業発展の原動力になるものと期待しております。

本年は、協議会発足から7年目になります。これまで会員の皆様方からお寄せいただいた貴重なご意見につきましては、次回の定時総会にてご審議いただくべく鋭意検討中であります。その骨子は、活動のあり方、組織の統廃合および会則の改定など協議会の変革に関するもので、とりわけ各部会活動の活性化に向けて邁進いたしたいと考えております。

末筆になりましたが会員皆様および関係者各位の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 米粉の料理教室

昨年の9月26日にあびこ型「地産地消」推進協議会主催で  
中山 恵子先生ご指導で「米粉を使った料理教室」に参加しました。

米は日本で自給出来る唯一の作物であり、近年では製粉技術の進歩によって「微細米粉」が登場しました。

小麦粉の代わりに出来る米粉をパン・お菓子などのほかに、てんぷらの衣にと幅広く活用される様になり、特に今回はうるち米を洗い、乾燥させてから粉にした米粉を使用しました。

特に、小麦粉アレルギーを持つ人などにも喜ばれています。

## <米粉の特性>

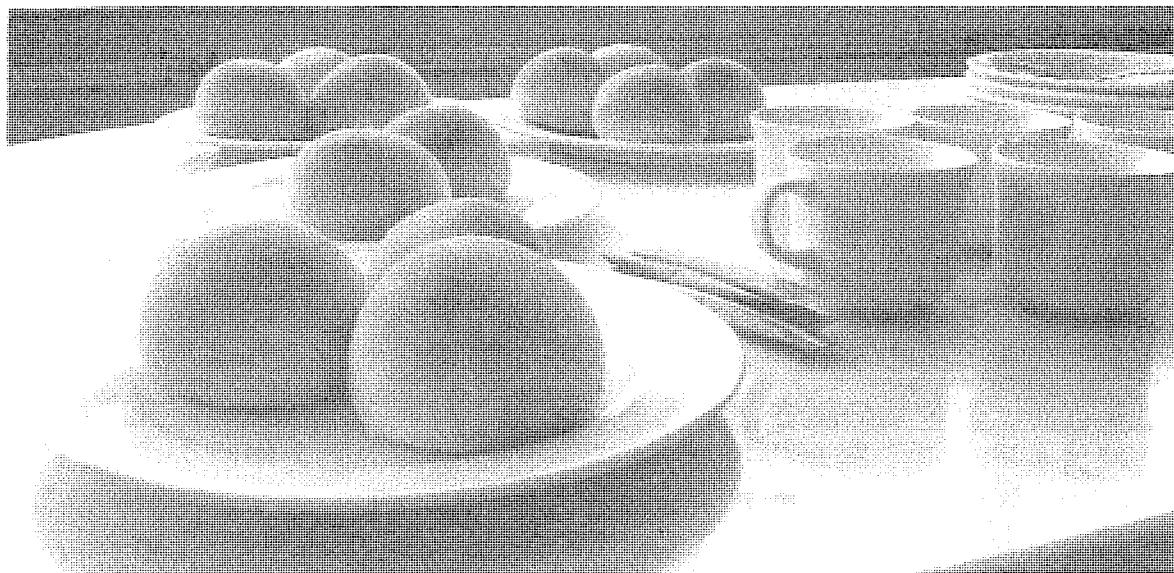
①しっとり もちもち さっくり カリット と調理方法によって新たな食感を持っています。 ②どんな食材とも相性が良いことです。



ご紹介のメニューは、3品

★ 丸パン ★ 初夏米粉ピザ ★ 米粉チキンクリームシチューです。

1. 丸パンは、米粉に牛乳、砂糖、塩を入れ混ぜたら、台の上でまとまるまでよく捏ねて腰を出し、分割した生地が倍になるまで発酵させ180度のオーブンで15分焼いて出来上がり、ふっくらと素朴なやさしい味のパン完成！



2. 米粉ピザは、生地をのばして、マヨネーズと醤油を塗り、茄子・ベーコンなどを並べてオーブンで焼いて出来上がりです。生地がカリットして小麦粉以上のもっちり感は、お子さんが好きそうな味でした。



3. 米粉クリームシチュウは、やわらかく煮た野菜に牛乳、生クリーム、米粉を加え出来上がりです。

3品とも2時間ほどで調理が終わり、皆で美味しくいただきました。  
「米粉でこんなパンができるとは思わなかった」と、とても好評でした  
特にお子さんがアレルギーのお母さんからは好評でした。

グルテンはその時には、直販所での購入が無理でしたが・・・  
現在は、米粉・グルテンは常時、直販所で販売しております。  
気軽に米粉を利用して美味しいお料理をご家族にどうぞ！

会員 坂巻 道代

# 農産物直売所を見学して

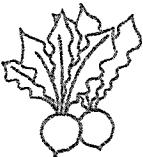
平成21年11月26日（木）農産物直売所の見学に参加いたしました。直売所見学予定地は3ヶ所あり、最初は若葉区小倉町にある「JR千葉みらい農産物直売所」で、県内では一番広い売場面積を持つ「しょいか～ご」です。

出荷登録者は約750名（設立時より減）正組合員（管内在住者）準組合員（借地農家）で構成されおり出荷組合はなく、農家と農協で立ち上げ、今年で4周年を迎えるそうです。

店内に入ると、売り場の広さ、明るさ、品数の豊富さに驚きました。商品の並べ方も適度な空間が作られており、特に惣菜の器と中味の量のバランスがほど良く、生産者の気配りと苦労が見受けられました。

商品に関しても、虫食いなどを正直に表示することで「しょいか～ご」に行けば地場産の新鮮野菜と安心が手に入るという消費者に満足感を与える工夫もされているようです。また、農家と消費者の情報交流の橋渡し役をしてくれる食育ソムリエが在籍しているということも大変印象に残る直売所見学でした。

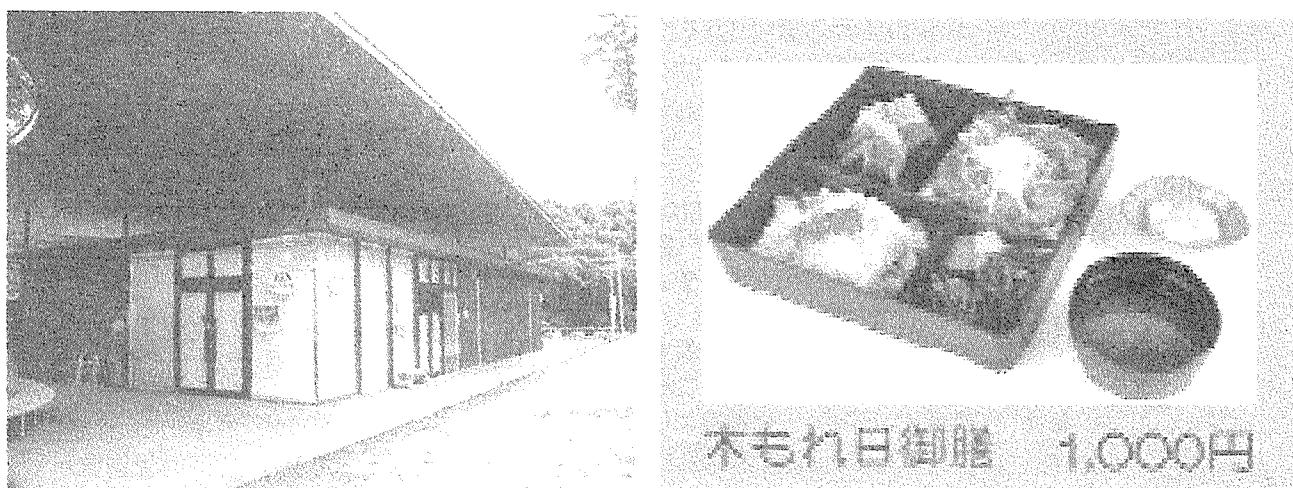




毎日の出荷の直営です  
川島市上田原1号会員の方へ

「しょいかーご」の出荷管理棚 ~店長の許可を得て撮影しました~

次は印旛郡栄町龍角寺にある「房総の村」と隣接する「ドラマの里」です。ここは、直売所の他 レストランも併設されていて、また自然も楽しめる所です。昼食に地場産の野菜を使用した煮物・揚げ物・菜めし入りの“木もれ日御膳”をいただき、家庭の味を楽しみました。



最後は印旛村山田にあり千葉そごうにも出店している「グリーブ」です。ここは、以前丸太小屋作りでしたが、リニューアルされ、売り場も広くなり商品も増え、広くなった分スーパー・マーケット的なコーナーもあり、こういう多目的な直売所もあるということを感じながら・・・“干し大根の簾”に、圧倒されながら帰途のバスに乗り込みました。

全国で13,000箇所の直売所があるとのこと、いずれ限界もあるでしょうが、どの直売所も安全・雰囲気・レイアウトなど、それぞれに特徴を出そうと努力運営されている思いが強く伝わってきた農産物直売所見学でした。

会員 杉本 静子

# 第6期 援農ボランティア養成講座の感想

養成期間：平成21年8月22日～10月24日

## <講座感想・特記>

はじめに、実行委員の皆様・農家の皆様、ありがとうございました。農作業など始めての経験であり、大変有意義な研修となりました。

農家の苦労の一部を体験することが出来、新たな視点で農業を見る一歩になりました。研修で感じた事は

1. 講座テキスト(講座編)の内容を具体的に学ぶためには、研修時間が極めて少ないため、部分的な内容になってしまうので、研修内容を午前・午後など調整などのカリキュラムを作る検討を必要ではないかと感じました
2. 養成講座をこの時期だけでなく、春と秋などにすることで、研修内容が広がり勉強になるのでは思いました(課題別に別途研修する企画なども希望します)
3. エコ農業生産について、現在と今後の展開などの課題に興味があります
4. 援農ボランティアについての位置付けを明らかにしてもらい、都市型農業農舞台・市(行政)の役割を明確にして、全面的に取り組む姿勢を望んでいます

## <講座感想・特記>

農家の方々・実行委員の皆様と一緒に参加したボランティアの皆さんのが全員気持の良い方々でしたので、大変楽しく農作業の実習が楽しく出来ました。

1. 農家の実習以外に、机上での講座・勉強会があつても良かったかな
2. もう少し、肥料や農薬・消毒のことを学びたいと思いました。
3. 果樹についての実習をやってみたいと思いました。
4. トマトがつる植物であること、初めて知りました。トマトの下葉取りはもうベテランになったように思います。数々の農作業から農家の皆さん

## <講座感想・特記>

1. 実行委員の皆様の準備・指導作業に深く感謝しています。
2. 実習内容のスポット的なマッチング・振り分けのほかに研修生が農家指定方式で、ボランティア実施などの方式も導入されることを希望します。
3. 援農ボランティア＝無償労働力提供で、研修生が得られる成果(意義)が、未熟で見つけることが出来なかった。
4. 毎回、作業ポイントをA4一枚程度にして、説明が欲しい

## <講座感想・特記>

皆さんに、わかり易く指導いただきましたが、実際の作業では、うまくいかないことが多いましたが、各農家の方々・実行委員の皆様・行政の皆様にも深く感謝しております。

1. 農家実習では、目からウロコの出来事が多く、勉強になった
2. 農家のご苦労がよく判り、採算面のことも勉強しました。
3. 今度は、田植え・稲刈りも体験したいと思いました。

## <講座感想・特記>

今回、「援農ボランティア」に参加出来たことに感謝しておりますまた、直接專業農家で実践させていただいた折には、不慣れでご迷惑をおかけしたと思いますが、親切にお教えいただき、楽しく、受講できることに感謝しております。

## 受講者名(50音順 敬称略)

- ①荒井 修治(高野山)
- ②射落 英一(白山)
- ③井川 進(つくし野)
- ④岩井 康(中峰)
- ⑤石田 信宏(我孫子)
- ⑥川畑 博子(つくし野)
- ⑦木村 靖弘(青山台)
- ⑧木村 米蔵(泉)
- ⑨小島 幸夫(青山台)
- ⑩斎藤 佳興子(湖北台)
- ⑪鶴谷 潤(柏市松ヶ崎)
- ⑫角野 麻子(柏市根戸)
- ⑬高宮 勉(並木)
- ⑭高宮 貴子(並木)
- ⑮田中 志保(我孫子)
- ⑯田中 千晴(我孫子)
- ⑰平野 善史(並木)
- ⑲増田 正美(天王台)

#### <講座感想・特記>

- 1 ボランティア受講生の年齢幅があったこと、農業に詳しい人もいる中で、全体雰囲気でも農家の人は苦労を少しでも自分達も吸収しようという気持ちが感じられ、大変良かったと思います。
- 2 指導員の方々も作業の段取り・進め方など、大変だったと思い、感謝しています。
- 3 今後も、農家の皆様の手足になり得るよう、自分自身の気持ちを切り替えて頑張っていきたいと思いました。お世話になりました、ありがとうございました。
- 4 受け入れ先の農家のご夫婦の方々が明るく・気さくな方が多く、気持ちがホットすることが出来、リラックスして実習作業が出来てよかったです。

#### <講座感想・特記>

- 1 実習作業には、満足しています。宮本部会長・実行委員の皆様には親切にご指導いただき深く感謝しております。
- 2 配布資料の養成講座テキストの勉強する時間が8日+で講師の先生から教わる講義のような勉強時間がほしい。
- 3 今後の活動の中で、6期生を中心に援農ボランティアの皆様と一緒に交流を深めて情報交換など行ないたい

#### <講座感想・特記>

1. 実習時間(3時間半)は丁度良かったと思ってますが時期的な関係から、トマト関連の実習に片寄った感じがしました。
2. 農具の使いかたは、大変参考になり、勉強しました。
3. 農作業全般について、受講者側に知識・経験に差があり、受講者の経験有り無しなど、予め確認した方が効率が挙がるように思いました。
4. 今後の援農ボランティアで、火曜日・木曜日の活動があれば、もっと多くの活動できるので検討してほしい

#### <講座感想・特記>

1. 農家実習の中で、片付け作業や、ネギ作業などのボランティア作業は、その意義を考えて欲しい（虫に喰われ、後でかぶれて困った、時間が余った作業でも安全面には充分配慮してほしかった）
2. 実習作業の中で、充実感があって勉強になったのはブロックリーの植え付け作業であった。

#### <講座感想・特記>

初めての体験でしたが、とても新鮮で、楽しく実習できました  
指導員の方々に丁寧に説明いただき、難しいこともありましたが、楽しく作業ができました。  
ありがとうございました。

#### <講座感想・特記>

- 1 農家の仕事は、手作業が多く、大変だと思いました。実習作業は、実行委員の方々より教わった事柄を忠実に行なったので、腰が痛くなったりもありましたがタイミングよく、休憩時間になり、助かりました。
- 3 農具の研ぎ方指導では、大変勉強になり、今後の参考になりました。

#### <講座感想・特記>

我孫子市の農業への取り組み・自然保全に対する取り組みに、深く敬意を表します。  
援農ボランティアは、もっと市民に知られていい取り組みと強く感じました。  
関係者のご努力・ご理解に深く感謝しました。

#### <講座感想・特記>

農家の皆様・実行委員皆様には、慣れない作業に際し熱心に、親切にお教えいただき感謝しています。  
今後は、収穫作業なども体験できるようお願い致します。

#### <講座感想・特記>

我孫子市の農業 農家の実態などその一端を知ったことは大変勉強になりました。  
実行委員の方々のご努力・ご高配に敬意を表します。特に段取りが良かったと思いました。  
今後は、米作り作業関連の勉強をしたいと思

## 第2回 新規就農講座を開催

あびこ型「地産地消」推進協議会は、我孫子市農政課と共に昨年に引き続き昨年10月17日に第2回新規就農講座を開催しました。農業後継者の育成や遊休農地の有効活用で我孫子市農業の維持・発展をはかることが目的。受講者は25歳から70歳までの13人（内女性3人）でそれぞれのテーマについて熱心に勉強しました。講座の内容は

- ① 我孫子市の農政の現状と今後の方向
- ② 就農までのみちすじ
- ③ 農地の取得（賃借）と農地法
- ④ 既就農者の体験発表

講師は当協議会の秋保武会長、市農政課の徳本博文主幹、千葉県東葛農林振興センターの森田大造主査が担当しました。

また、既就農者の体験発表は、第1回の「講座」受講者で昨年、新規就農者となった堀明人さんが就農の動機、先進農家や県農業試験場での技術研修、農地確保については、市農政課の農業委員会と農家との交渉状況、営農資金の調達など昨年一年間の取り組みについて説明し、大変参考になりました。

11月7日には、この「講座」の一環として農家の現地研修会を開催、これには3人が参加しました。研修先の農家は鈴木順一さん（トマト）荒井茂夫さん（花卉）鈴木誠さん（露地野菜）で栽培技術や販売方法などについて懇切、丁寧な説明がありました。

一方、テレビなどマスコミは、農業があたかもバラ色の職業みたいに報道をしているが現実は、あまいものでなく就農にあたっては資金、技術、経営などについて大変な努力をしなくてはならないと叱咤激励をしました。

また「あびこ農産物直売所」では市農政課の大畠照幸課長が平成19年6月の設立当時から現在までの取組み状況について説明し、参加者に販売先があることの安心感を抱かせました。

併せて具体的に就農を目指す4人については上記の市、県の講師と当協議会の担当が一緒に個別に面談をおこない営農計画、技術習得方法、資金計画などについて協議しました。これまでに2人が農家の研修、農地の取得に取り組んでおり今年の就農が期待されます。

最後に昨年は4人が就農しましたが、これには市の農政課が農地の確保について情報を把握し農業委員会と農家との交渉を精力的にすすめた結果によるものです。また、市は今年度は新規就農者に対して農地の取得や資材の購入について資金の援助などバックアップ体制を強化するとしております。

注：（写真は）「講座」で森田主査が「就農までのみちすじ」について語る

我孫子市農政課

あびこ型「地産地消」推進協議会

注：次の掲載文執筆者の加賀文志さんは上記4人のうちの1人で、昨年6月1日に千葉県知事に認定された新進気鋭の若手就農家です。

以上

新規就農部会 森蔭 幸二郎

# 第1期生 新規就農者

花を支える枝  
枝を支える幹  
幹を支える根  
根はみえねんだなあ



私の敬愛する 相田みつを さんの言葉です。

2008年4月から一年間、千葉県農業大学校で研修を受け、昨年9月にこの我孫子市に就職しました。

浅学の知識と経験のため、目にするもの触れるもの殆どが初めてで失敗の連続でした。

また、それまでは異業種の会社勤めだった私は戸惑いや不安も少々ありました。しかし、家族や知人の励ましによる精神的な支えと我孫子市農政課の方々の支援、そして何より農家の先輩のご指導や助言をいただくことで、未来を明るく見据えることが出来ました。

人と人とのつながりは見えないもの。  
見えないものだから解らない難しい、けれども見えないものだけど大事にしたい。

自分自身の根を深く張っていく場所は、やはり我孫子で間違っていなかった。何年後にはそんなことに胸を張って言えるようになりたいです。  
今春は私にとって農業者としてスタートの気持ちです。

たくさんの作物を作ることで皆さんと共に、農業者としての悦びを分かち会えればと思います。

皆さんどうぞよろしくお願ひいたします。

新春の慶びに思う 一月吉日 加賀 文志

## 新幸餅つき大会

日時 1月16日（土）午後10時～午後2時

冬晴れのあびこ農産物直売所で沢山の来会者が餅つき大会を楽しみました。加工部会のテントで作ったお雑煮、きなこ餅なども好評で、お客さんから・つきたての餅は美味しいね・との声が聞こえてきます。直売所の棚には、あびこ産野菜の種類も豊富で、お客様も大勢おりました。広場のテントでは、みかん、ぶんたん、リンゴなどの特売があり、春の花鉢も置いてあります。

★もちつき体験コーナーでは、子どもさんが餅をつき、親御さんが写真を撮っています。つきたて餅の試食コーナーには人だかりができていました。

★子供遊びコーナーのバルーンアート作りには行列が3列でき、子どもさんが色々な形の風船細工をもらっていました。手品ではハンカチが消えたり花がでたりで拍手かっさいです。ミニSLでは親子づれの記念撮影が多かったです。総勢657人の来訪者がありました。



加工部会のかまど



気合をいれた市長の餅つき

### ★ もちつき体験コーナー



お子さんの餅つき



はいポーズ 写真をぱちり



ハンドル回すとまる餅がぽとん



餅の試食コーナーに人だかり

★ 子供遊びコーナー



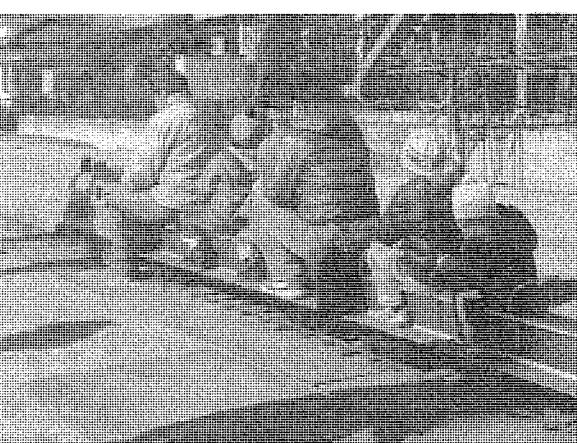
● パルーンアート作りに行列が・・



バルーンアートのトラ子さん登場



● 手品だよ～見てらしやい～



● ミニSで 出発 GO～

あゆみの郷・都市建設公社、我孫子農産物出荷組合（加工部）、農政課、  
ボランティアの方々のご支援ご協力ありがとうございました。

記事/写真 広報・宣伝部会

# NHK総合テレビ「生活ほっとモーニング」放送

平成21年11月17日（火）午前8時35分から全国放映されました



## NHKの取材を受けて

援農ボランティアの川田さんの取材ということで、たまたま受け入れ農家として我が家ということになったわけですが、川田さんははじめ援農ボランティアの皆さんには大変お世話になっております。仕事が間に合わなくて“どうしよう！”と思うときも援農ボランティアの方々を頼りにしています。

取材当日は、ディレクター的一條さんの上手な話の持ていきかたに乗せられながら、カメラが回っていても川田さんはいつもと変わりなく、普通にトマトの葉かき作業をし、片づけをして半日取材が無事終ることができました。

わが家の今年1年の十大ニュースの一つになりました。

いろいろな人に助けられ、励まされ、支えられ、私たちは生きています。感謝しながら、どこかで誰かに少しでもお返しができたらいいなと思っています。

農家会員 古川 美恵子

# NHK総合テレビ「生活ほっとモーニング」放送について



子供の頃から植物や野菜に興味がありましたが、実際の農作業経験は殆んどなく、田畠での農作業の様子をただ遠くから眺めているだけでした。しかし昨年の夏、「援農ボランティア養成講座の参加者募集」の案内を見て、「ぜひ話を聞いてみたい」と思いました。

さて、実際のボランティア活動を通して、野菜や土のこと、農具のこと、汚れにくい服装の工夫や 疲れにくい姿勢に至るまで、様々なことを教わりました。毎回の活動がとても楽しく、勉強になります。

とくに朝、自転車で現場に向かいながら、「今日は何の作業かな?」と考えるとワクワクします。畑や温室で農家の方がキビキビと働いている姿を見ると、自分も青筋が自然とシャキットとします。

そしてボランティア仲間や農家の方と作業をした後、「ありがとう」の一言とともにお土産の野菜をいただくとき、心がジンと温かくなります。自分もお手伝いをした野菜達がつやつやと輝く姿を見ると、とてもありがたく、何だか少しもったいないような気持ちになり、どうやって食べようかと真剣に悩みます。子供のころに学んだ「感謝して頂く」という気持ちが自然と湧いてきます。

また、会社ではなかなか出会えない様々な年代や職業の方と一緒に作業ができることも、とても貴重な体験です。援農を始めてから、今まで知らなかつた我孫子の魅力に触れることができ、生活が楽しくなりました。

これからも「無理をせず細く長く」を念頭に、自分のペースで援農に参加し続けたいと思います。土や作物に触れる生活を大切にしていきたいです。

あびこ型「地産地消」推進協議会  
援農ボランティア 川田 悅代

## お知らせ

### ★ 第34回我孫子市消費生活展

日時 平成22年2月13日(土)・14日(日) 10:00~16:30

会場 あびこ市民プラザ(あびこショッピングプラザ内 3F)

### ★ とうかつ千産千消ネットワーク活動交換会

日時 平成22年2月24日(水) 12:00~16:00

会場 沼南社会福祉センター(柏市風早1-2-2)

### ★ 市民活動フェア in あびこ 2010

日時 平成22年3月6日(土)・7日(日) 10:00~16:00

会場 アピスタ/けやきプラザ

### ★ 平成22年度 定期総会

日時 平成22年5月26日午後1時30分~4時

会場 あびこ市民プラザ(あびこショッピングプラザ内 3F)

## 寄贈頂きました

◎ 中澤正子さんより80円の切手40枚の寄贈がありました。

◎ 鈴木誠さんより1500円の寄贈がありました。

有効に使わせて頂きます。ありがとうございました。

## 編集後記

新年 皆様がたにおかれましては ご清祥のことと存じ上げます。  
新年餅つき大会も大勢の方々が参加し楽しまれたのは幸いでした。  
先日、あびこ農産物直売所で詩の書付を見つけたので紹介します。

いのちのあるかぎり。地から産まれ、地に消えるのは、  
野菜も人間も同じかもしれない。「夢」という種を地に植え、  
「希望」という芽を育て、「現実」という野菜を収穫し、  
泣きながら、笑いながら、いのちのあるかぎり生きたい。  
あびこに産まれてよかったです。

これからも皆様方と、あびこ型「地産地消」活動に励みたく存じます。  
今後ともよろしくお願ひ致します。

杉山 記